

## 『働くお母さんへのエール』

株式会社イワキ 西武店

小松 由佳

「インフルエンザですね」小児科の先生から無情に告げられる事実。「お母さん、この間はインフルエンザBだったね、今回はAですよ」。

これで私の明日の出勤が不可能なことが決定する。先月も子供のインフルエンザでお休みしたのに……。今から病児保育を申し込んでも10人近いキャンセル待ちは確実。明日はお客様とお約束があるのに、お店のメンバーに負担をかけてしまう。

働く母の毎日は激流に翻弄されるようにいつも子供の体調に左右され、その体調がとにかく不安定。小さければ小さいほど体力もなく体調不良を繰り返す。

「本当に申し訳ありません…お約束を2度も延期して頂いて…」「いいのよ、私があなたにやってもらいたいんだから。お嬢さんの調子はもういいの？お母さんの体力も奪われるから無理は禁物よ。これはお嬢さんに」。そう仰って絵本とお菓子の入ったお土産を出来上がりのメガネと交換に差し出された。もう何年も、メガネを担当させて頂いているお客様。子供の体調でご迷惑をお掛けしたことも鷹揚に笑って新しいメガネを嬉しそうにかけて帰って下さった。

今から20数年前、まだ育児時間短縮勤務などもない当時、本当に働く母は店メンバーの協力とお客様のご理解に支えられていた。今になれば子供はすぐに成長するし、子育てや介護で、または自分の体調でイレギュラーは誰にでも起こる事も、何かあったら店のメンバーが必ず何とかしてくれることも知っている。でも当時はそんな風に思う余裕は持てなかった。お休みしますというのが本当に心苦しくて何度も辞めようと思った。しかしその度に「良くなるまで待ってるわ、あなたにやってもらいたいから」といって下さるお客様に励まされ支えられてきた。

そして今年、当時私を翻弄していた長女が社会人になり保育園に就職した。保育園の時から大学卒業まで一貫して保育士になりたいと言っていた娘。「子供が好きだし、お母さんたちがどれだけ頑張っているか、苦労しているか、そばで見えていたから少し分かる。保育園で楽しいけど頑張っている子どもの気持ちも知っているから」。念のため他の道も考えてみた方が良いのではとアドバイスする私に娘はそう言う。

絵本を下さったお客様は今も「お嬢さんはいくつになったの？お元気？」と折りにふれ気にかけて就職祝いにお菓子を下さったりする。そんなお客様に恵まれて、子供とお母さんの気持ちを少し知っていて、思いやることのできる保育士を一人育てること出来て、とても幸せだと思う。今頑張っているお母さんたちにエールを送りたい。